

令和3年度国保事業費納付金等の算定結果【概要】

1 算定結果の概要等

- 国から昨年12月25日に示された係数と市町から提出されたデータをもとに、令和3年度国民健康保険事業費納付金等を算定した。
- 令和3年度における一般被保険者数（年度平均）を190,150人と推計。令和2年度推計値（195,646人）から5,496人減少する見込み。
- 上記のうち、70歳以上の被保険者数（年度平均）を62,886人と推計。令和2年度推計値（60,418人）から2,468人増加する見込み。

○被保険者数の推計結果

	令和3年度	令和2年度	増減
一般被保険者数	190,150人	195,646人	▲5,496人
うち70歳未満	127,264人	135,228人	▲7,964人
うち70歳以上	62,886人	60,418人	+2,468人

(1) 医療分

- 令和3年度における1人当たり診療費を485,068円と推計。令和2年度推計（477,118円）と比べ、7,950円増加する見込み。
- 令和3年度における診療費総額を約922億3,561万円と推計。令和2年度推計（約933億4,620万円）と比べ、約11億1,059万円減少する見込み。

○診療費の推計結果

	令和3年度	令和2年度	増減
一般被保険者	922億3,561万円	933億4,620万円	▲11億1,059万円
うち70歳未満	519億4,089万円	546億6,386万円	▲27億2,297万円
うち70歳以上	402億9,472万円	386億8,234万円	+16億1,238万円

令和3年度国保事業費納付金等の算定結果【概要】

1 算定結果の概要等(続き)

- 70歳以上の被保険者に係る診療費を、約402億9,472万円と推計。
令和2年度推計(約386億8,234万円)と比べ、約16億1,238万円増加する見込み。
 - ・ 70歳以上の被保険者に係る1人当たり診療費は、640,758円であり、令和2年度推計値(640,245円)と比べ、513円増加
 - ・ 70歳以上の被保険者数が令和2年度推計(60,418人)から2,468人増加
 - 年齢調整後の医療費指数(全国平均=1)は、最大が直島町の約1.21、最小がまんのう町の約1.10であり、県平均は約1.14。
 - 1人当たり平均所得(医療分)は、最大が直島町の686,033円、最小が小豆島町の406,740円。県平均は503,910円。
- (2) 後期高齢者支援金分
- 国が示した1人当たり負担見込額は、63,674円で、令和2年度(63,078円)より596円増加。
- (3) 介護納付金分
- 国が示した1人当たり負担見込額は、80,133円で、令和2年度(75,720円)より4,413円増加。
 - 令和3年度における介護保険第2号被保険者数(年度平均)は、54,280人と推計。令和2年度推計値(57,041人)から2,761人減少する見込み。
- **各市町の納付金額・標準保険料率**
別添のとおり

2 県が示す算定結果と市町における保険料率

- 市町は、県が示した納付金額、保険料必要額等を参考に、収納率見込み、基金からの繰入等を考慮して、保険料の算定方式(3方式、4方式)、保険料率等を定める。
- ※ 県が示す標準保険料率は、同じ尺度で市町ごとの保険料率を見るためのものであり、市町ごとの事情(基金からの繰入等)を考慮していないため、市町が定める保険料率とは必ずしも一致しない。